オーディオ実験室収載

Sonica DAC の活用(10)
—DSD 録音(2)—

１．はじめに

前報(9)に引き続き、Sonica DAC の再生音を録音します。

２．Sonica DAC の録音と試聴方法

音源はベルリンフィルディジタルコンサートホールと PrimeSeat からの再生とし、Sonica DAC に USB 入力して DA 変換し、DA-3000 に入力して、2.8MHzDSF のフォーマットで録音します。 5.6 MHzDSF としなかった理由は、ネットワーク再生の上限が 2.8MHzDSD のためです。なお、録音時には GPS-777 から DA-3000 に 44.1KHz のクロックを入力します。

また、別途 Sonica DAC の活用(12)で報告しますが、今回、無線ルーターへの入力用 LAN ケーブルの LAN リベラメンテの入力端子付近にアモルメット NS295 をセットしています。

３． Sonica DAC の録音と試聴結果

前報(9)同様、録音した 2.8MHzDSF 音源の SD カードメモリーを DA-3000 から取り出し、①そのまま SD カードメモリーに挿しこんで Sonica DAC の USB ポートから再生、②SSD にコピーして再生、③FIDATA HFAS1-S10 にコピーして再生を行いました。

ベルリンフィルディジタルコンサートホールの再生の録音では、元音源は圧縮で送られてきていますが、Sonica 経由で録音し、無線ルーターへの入力用 LAN ケーブルの LAN リベラメンテの入力端子付近にアモルメット NS295 をセットしたともあって随分とこれまでの録音よりグレードが上がっています。上記三つの再生条件では、SD カードメモリーは若干グレードが落ちますが、SSD にコピーして再生する場合と FIDATA HFAS1-S10 にコピーして再生する場合はほぼ同格です。

PrimeSeat からの再生の録音では、元音源は 5.6MHzDSD で送られてきているので、楽器の質感などは良好ですが、オーケストラ全体としては、日本のホールにおける N 饗の演奏であり、ベルリンフィルの大ホールの録音環境に負けています。

さらに、FIDATA から Sonica DAC に USB 直結で DoP 伝送で再生すると、上記の LAN 経由より、迫力と生々しさがでてきます。

４．まとめ

ベルリンフィルディジタルコンサートホールと PrimeSeat からの再生で Sonica DAC に USB 入力して DA 変換し、DA-3000 に入力して、2.8MHzDSF のフォーマットで録音したものは、①SD カードメモリーリーダー、②SSD、③FIDATA HFAS1-S10 のいずれからも再生可能で、これまでの録音よりグレードが上がっていました。

以上